

第1回 野洲市にぎわいづくり市民会議 結果報告

1. 開催日時等

平成 29 年 7 月 11 日（火）午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分

於：野洲市役所 3 階 第 2 委員会室

2. 委員等

＜出席委員（17 名中 16 名）＞	50 音順	
1 号委員（学識経験者）		
及川 清昭 委員	白井 宏昌 委員	
2 号委員（関係団体を代表する者）		
梅景 俊之 委員	衛藤 信之 委員	懸戸美栄子 委員
川尻 良治 委員	坂口 重良 委員	東郷 克己 委員
安田 亮 委員	山肩健次郎 委員	吉田 常雄 委員
3 号委員（公募）		
前田 基良 委員	松山 宏 委員	
4 号委員（市長が認める者）		
市木 礁 委員	岡本 美香 委員	中島 大介 委員
＜欠席委員（1 名）＞		
2 号委員（関係団体を代表する者）		
小西 大記 委員		

＜傍聴者＞

2 名

3. 議事等

1) 委員紹介及び委員長・副委員長の選任

- ・委員長に及川委員、副委員長に白井委員を選任

2) 交流／商業施設整備方針（案）について

①質問

- ・にぎわいづくり市民会議で今年度関わるのは資料①のどこまでか。
→本施設とセットで考えている市民病院が、実施設計予算が議会で認められずに止まっている。今年度どこまでできるか不透明だが、市民病院の実実施設計と歩調を併せて進めていく。
- ・資料② P1 の交流／商業施設と交流施設等はどう違うのか。
→交流施設等は後期で整備する施設となっており、コミセン機能を想定している

が、具体的な議論はまだ始まっていない。

- ・施設の規模、面積はどれくらいか。

→土地の面積は1,770 m²で、ワンフロア1,000 m²程度の建物をイメージして間取りを描いている。本日は大まかなイメージで捉えるため細かな数字は入っていない。

- ・この会議はあと何回程度考えているのか。

→基本計画を作るまでに計4回程度開催と考えている。

- ・子育てというと小さい子どもをイメージするが、中高生を含めどういう枠で施設を考えているのか。子育て支援は保護者や家族を支援することが重要で、情報提供やセミナーなどが大切だと考える。

→子育て支援機能として市で想定しているのは子育て支援センター。高校生の利用は活動スペースで勉強等を想定している。あくまで市はそのようにイメージしているというものであり、今後議論いただければと思う。

- ・若者や子育ては出てくるが、高齢者や障がい者への広がりはどのように考えているのか。

→現在、高齢者のサロンやサークル活動は会議室等を利用されており、交流/商業施設でも同様に活動を想定している。どんな機能が欲しいかはどんどん出してもらえれば。施設は段差を少なくしエレベーターを設置する等バリアフリーにし、利用してもらいやすい施設とする。

- ・建物の建築主体と運営主体はどこなのか。商業テナント等もあるが。

→現在市が担うことを前提に考えている。市が直接やるか、指定管理者制度か、委託かの違いはあるが、商業テナント以外の運営は市が担う。一方で、事業用定期借地にし、テナントとして市もフロアを借りるということも考えられ、両方とも可能性として検討しているところ。

- ・駐輪場の占めるスペースが多いが地下に駐輪場は作れないのか。

→地下駐輪場は京都駅前等にあるが、コスト面の問題がある。守山駅前ですいているような上下に停める2段ラック式にするともう少しスペースを狭くできる。

- ・慢性的にホテルの需用はあると聞いているが、何らかのホテル機能は市の方で考えているのか。

→市がホテルを建て、運営することはできないが、市が民間に土地を貸して民間が建てるというやり方であれば可能性はある。

②意見交換

- ・女性に働いてもらわないといけない社会が来る。子どもを産んでも働ける場を作っていないといけない。駅前子どもを預かってもらうには非常に便利のいい場所ではないか。

- ・今高齢者の施設は非常に静かなところにある。活気があり外から刺激を受けるところに施設があればいいのではないか。

- ・若い子が集まるようなカフェ等が欲しい。SNS で発信できれば人が集まる。
- ・ジム等体力づくりの部分が不足している。活動スペースに体動かせるようなものを入れるのはどうか。
- ・商業テナントに歯医者等客が確実に行くような誘導性のあるものを配置する。
- ・イメージ図は観光案内所が狭い。事務所兼物産スペースが確保されるといい。駅と隣接し、タクシー等を利用して野洲を案内できる観光案内所を目指している。
- ・駐輪場の一角にレンタサイクルを置いて電車で来た人でも琵琶湖一周ができるようにする。
- ・若い人が野洲に戻って仕事ができるようなスペースがあるといいのでは。コワーキングスペース、シェアオフィス等。商工会、工業会があり、そういう若い人の指導もできるのでは。
- ・共働きが多いため、駅前に宅配ボックスがあっても面白いのでは。
- ・現在コミセンもあるので、コミセンと同じものができては仕方ない。
- ・公衆トイレと建物内のトイレが近くて無駄。活動スペースは奥でもいいのでは。
- ・子育て支援は上階にあると子どもを連れた人が行くのは大変。
- ・図書館は1階の方が入りやすい。飲食の近くでなく、静かな方がいい。
- ・名称に「商業」とついている割に商業スペースが少ない。交流機能は後期の検討にある程度振ってしまってもいい。活動スペースは大きなスペースを取る必要があるのか疑問。空きテナントを家賃の関係で断念する人も多く、そういう人を誘致してもらう方が活性化につながるのではないか。
- ・住んでよし、訪れてよし。若い人も高齢者も安心して住めるまち、特に共働きの世帯やお母さんが安心して働ける環境を作っていく。子育て支援や介護予防は駅前にあると便利。
- ・ターゲットが明確になっておらず、中途半端なラインナップになっている。駅の側だから外から人を呼び込むのか、市民のためのものなのか。フロアごとに分けるのもいいが、誰をターゲットにどんなフロアにするのかの整理が必要。
- ・病院ありきで考えるべき。騒音を気にする人もいる。病院がある場所に来てもいいものかどうかという発想も持つべき。
- ・部屋名にとらわれなくて、ここでどんなことが起こってほしいのか、誰がどんなことをするのかを具体的に議論する方がいいのではないか。
- ・この施設がこの施設だけのものというよりは、発信する拠点がこの施設にあり、受け皿が市内にあり、連動というのが大事になる。ここだけが賑わうのではなく、野洲全体が賑わっていく効果が見込めるという発想が大事。